

令和6年度 指定管理業務 実績評価シート

基本様式

作成年月日 令和7年6月17日

部課名 教育委員会文化財課

施設名	瑞楽園
施設の設置目的	弘前市の歴史や文化を伝え、もって市民の教養を高めるため
所在地	弘前市大字宮舘字宮舘沢26番地2
指定管理者名	有限会社 三浦造園
指定期間	令和6年4月1日から令和10年3月31日まで
1 事業計画の実施状況 施設の設置目的を理解し、協定書、管理業務基準書及び事業計画書に基づいて、概ね計画通りに実施されている。また、利用客が安心して施設を利用できるよう、施設内外の環境美化や維持管理に努めるなど、事業計画に基づいた適正な管理運営をしている。	
2 自主事業の実施状況 参加者に好評だった事業を引き続き実施しつつ、新しい事業を実施するなど、市民サービスの向上につながるよう創意・工夫を重ねて取り組んでいる。 令和6年5月25日(土)「箱庭教室」 令和6年6月8日(土)「つがるの昔っこ」 令和6年7月1日(月)～7日(日)「七夕の節句・短冊に願いを」 令和6年8月1日(木)～7日(水)「小金魚ねぷた」を作ろう&無料配布 令和6年8月4日(日)「箏曲演奏会」 令和6年8月24日(土)「苔玉教室」「つがるの昔っこ」「箏曲演奏会」	
3 市民サービス向上のための取組状況 庭園に関する説明・案内が出来るよう、管理人を対象に定期的に研修や緊急時の避難訓練を実施している。また、念入りの清掃やこまめな消毒を行いながら、来園者と適切なコミュニケーションを図るよう努めている。	
4 市民ニーズの把握の実施状況 来園者へのアンケート調査に加え、来園者への適度な聞き取り等によりニーズの把握に務め、事業に反映させたり、市民サービス向上につなげている。	
5 施設の利用状況（利用者数、稼働率など） 令和6年度の入園者数は1,793人となっており、前年より減少した。 (参考: 令和2年度:1,263人 令和3年度:936人 令和4年度:1,309人、令和5年度:2,000人)	

6 指定管理業務の収支状況

計画的で安定した予算執行に努めており、適正に行われている。

7 実地調査の結果

施設が適切に管理・運営されており、業務も誠実に遂行されていることを確認した。また、個人情報の管理及び収支に係る帳票等も適正に整理・保管している。

8 成果指標の達成度

入園者数: 目標 2,006人 (H30、R元、R4の3年間の入園者の平均値)
令和6年度実績: 1,793人 達成度 89.38%

9 評価

(1) 指定管理者の自己評価

評価区分	評価	評 価 の 説 明	今後の課題と対応
施設の運営	A	市の広報に掲載してもらったり、施設内外にパンフレット置き、広報活動した。 季節の飾り付けなどに気を配ったり、「十五夜の会」の開催では、2部構成として実施し、メリハリをつけたのがよかった。 今年も、参加者が笑顔だったのが、嬉しかったです。	来園者数の増加のため、指定事業・自主事業の広報とともに、「瑞楽園」自体をアピールするため、マスコミ(今回はアップルウエーブなど)を利用して、広く瑞楽園を知ってもらうことに務める。 その中でも、「広報ひろさき」は効果絶大なので、開催事業の掲載は必須である。
施設の管理	B	館内の掃除は、行き届いていて常に清潔感が出るようになったと思う。 展示物が、著しく老朽化しているものは、今年度もさらに整理し、展示物の方法も少しずつ変えて変化を出していきたい。	今年度も館内の展示物の見せ方の工夫、清潔を保つための清掃など、より一層の努力をします。
経理の状況	C	収支はだいたい予算どおりにいっていたが、12月中旬以降の大雪で予算にない除雪作業や雪下ろし作業が発生し予算を大きくオーバーしてしまった。 自主事業は参加費をもらうようにして収支を改善していくようにした。	経費の区分を明確にして収支の状況を常に把握し、経費削減に努めます。 帳簿の保管については、伝票・領収証・総勘定元帳等は年度別に分類し保管しています。限られた予算では、今年度大雪などに対しては対応できない。 来年度も、予算にない事業が発生した場合はもう持ち出しはできません。
団体の財務状況	B	管理可能だと思います。	契約の不履行が無いよう経営の基盤を固め努力します。

(2) 市の指定管理者に対する評価

評価区分	評価	評 価 の 説 明	今後の課題と対応
施設の運営	A	協定書・基準書等の内容に基づき、概ね適正に実施している。来園者に対し、丁寧な対応・説明を行っている。	引き続き利用者増を図るため、魅力ある自主事業の展開に期待する。
施設の管理	B	利用者の安全を第一に施設内外の環境整備や維持管理を徹底しており、また個人情報や文書等の管理も適切に管理している。	今後も適正な管理に努めていただく。
経理の状況	B	大雪による対応を要したものの、経費の削減、帳簿等の整備・保管については、概ね適正に実施している。	今後も適正な経理に努めていただく。
団体の財務状況	B	安定した経理的基盤を有している。	今後も安定した財務状況を維持していただく。

【評価の視点】

評価区分	評 価 の 視 点
施設の運営	法令等の遵守、使用許可、市の指定事業、付随業務、自主事業、公平性、職員配置・研修、開館時間・休館日、職員の接遇、利用者ニーズの把握・反映、事業計画の実施状況、業務報告など
施設の管理	利用者の安全対策、施設・設備の維持管理、個人情報の管理、文書等の管理、備品等の管理、緊急時対策、災害対策など
経理の状況	帳票等の整備、経理の区分、収支状況、経費の削減、帳簿等の保管状況など
団体の財務状況	安定的な施設の管理が可能な経理的基盤を有しているか

【評価の基準】

A	協定書・基準書等の内容を超える管理運営が行われたと判断できるもの (適正な管理運営に加えて、更なる取り組みや成果があると評価できるもの)
B	協定書・基準書等の内容を概ね適正に実施していると判断できるもの (軽微な改善点はあったが、速やかに改善されているもの)
C	協定書等の内容に対して改善点はあったが、適切な改善策が講じられているもの
D	協定書等の内容に対して不履行があるものや、改善がなされていないものがあるもの

※「団体の財務状況」の評価基準

B	問題がない
C	今後に注意を要する
D	早急な改善を要する